



日曜日 昭和十年五月八日 午後七時 石城政友部會總會

滿四年振りに開く

石城政友部會總會

木村部會長の重任要望

佐藤、鈴木両氏の議會報告

石城政友部會では六日午後三時から平町政友クラブ内に定例幹部會を開き木村部會長、井上幹事長、金成上院議員、佐藤代議士、古川傳一、小野晋中、關内正一、伊藤淺之助氏以下常任幹事等二十餘名出席協同の結果来る十八日午後一時から平町集會館に於て部會總會を開き任期満了の全役員を改選午後二時から同會場にて地方選出佐藤、鈴木兩代議士聯合の議會報告演說會を開く事に決定した、尙ほ同部會總會は去昭和六年以來滿四年振りに開かれるもので木村部會長、井上幹事長以下全役員に刷新の空氣充ちて居り新人抜擢を叫ばれて居るが最高幹部間には依然木村部會長以下井上幹事長、古川副會長等の再選重任により今秋縣議戰へ臨まんとする空氣濃厚で木村部會長の再選は特に望まれてゐる、尙總會終了後の大演說會には東京本部より特別に大臣級の大物を迎え政黨政治復興への聲を揚ぐべく佐藤代議士は急遽東京目下本部と接衝中で近日中に特派員の決定を見る筈である

警備衛生部委員

明日視察に出發

市制調査會のトップを切り

豊橋、京都方面へ向ふ

大平市建設を期して雄々しく力強い第一歩を踏み出した市制調査會の活動振りは三萬町民の焦點となつてゐるが調査會のトップを切り去二日調査研究の大綱を決定した警備衛生部では關内部長以下全委員が明日八日平野發列車で出發各地の視察に向ふ事に決定したが同部の視察調査日程並に擔當は次の如く發表された

コレララチビスムスは伊太利で云ふ職業團體主義、又コレラと云へばコレラと云ふの略で隔地間の銀行が爲替取引を圓滑にする爲め取引代金取立を豫約の下になす相互取引

地下採掘を研究

産業資源部の大綱

平一小名間直通自動車市營

市制調査會産業資源部は野崎部長以下出席昨日六日午前十時から第一回委員會を開き部の調査研究大綱を次の如く決定直ちに調査に着手する事になつた即ち同部の大綱は

- △物産陳列場設置縣の斡旋所を併置△物産の創設と獎勵事業△平土産品の發見獎勵等に注目されてゐる
- △資源調査は平一小名間の市營直通自動車經營△温泉の堀鑿△屠場市の市營計△火葬場市營による電化△平町地下採掘の研究

如上の外今後凡ゆる方面に向つて資源開發に努むる事に決定した

財政部

昨日委員會

財政部の第一回委員會は六日午後一時から開き井上部長以下全委員出席部の性質上直ちに大綱を決定するに至らず最近市制を實現した酒田、石巻、大宮その他全國各地から市財政の參考資料を蒐集して平町の實狀に照らし慎重な調査研究を進めて大平市百年の大計を樹立する事に決定したが市制實現の上にて最も重要な財政部の今後の活動振りにこそ注目される

メロンの暴落から

當業者に大脅威

保溫燃料の石炭が高くなつて

收支償はぬ冬の栽培

石城郡に於けるメロンの生産に限られてゐるが斯したメロンの暴落は栽培者の廢業を見總額約一萬圓に達するが近年同果の値段が著しく低下せる上に冬期間の栽培に要する保溫の燃料石炭が高騰したのと同期栽培は全然引合はず初春から秋の終りに及ぶ二回作

平土木監督所管下

二橋の架換え着工

喜ばれる中川橋の位置變更

工費總額約三萬二千圓

平土木監督所に於て架換え二橋踏切番人經費の節約が計畫されてゐた本年度工事の小川橋(小川郷驛前)中川橋(小川村江田)大山橋(御齋所街道)の三橋は今回いよいよ設計が出来たのである六、七月中に着工の筈であるが全工費約三萬二千圓で右三橋の中の中山橋は鐵道越線東線に差かゝる縣道迂回のため僅々五百米(二百間)餘の距離の間に二ヶ所の踏切があり交通上甚だ危険なので位置を變へて同踏切を避け架換えられることになつたが鐵道側でも踏切二ヶ所の不用には一ヶ年約一

街の顔役小ギヤング

平署一齊掃蕩を決意

恟々たる硬、軟不良連

柴田署長兼任後沈黙を續けてゐた平署の新撰組警官隊は最近東部に於て行はれた空前のギャング狩りに刺戟され殊に最近カフエー、活動館その他興業物等の盛場に著しく増加横行してゐる硬軟不良連の一

老賊御用

産馬役員視察

若松市材木町生れ當時住所不定無職前科二犯五十嵐市太郎(六九)は二十五日夜植田町仁井田橋野とし方の留守宅に忍入り衣類資金等約九十圓分を窃取した事發覺六日同町地内を徘徊中植田署に檢舉されたが同町に最近頻出してゐる空巢覗ひ犯人は此奴であるらしく嚴重罪取調中である

石城郡産馬畜産組合役員、評議員等役員二十三名は四日出發三泊の筈で中通り方面の産馬視察に向つた

職工募集

平職業紹介所では石城郡錦村に於ける昭和八人の織業開始による求人申込みに續いて今回また更に大阪府三島郡高槻町絹糸株式會社から男工十數名の採用を申込み目下希望を取つてゐるが右の資格は大體左記の如くである

- 体格同社標準規程による甲種身長五尺二寸以上、學歷高等小學校卒業(青年訓練所在所中のもの)、職業農業年令滿十六才以上滿十八才まで、長男にあつてゐるもの以上

集金横領

社主が告訴

當時双葉郡富岡町の森居住武岡清(三)は平町田平商工時報社外役員に被雇中昨年十月下旬から今年二月まで外交先の集金、廣告料その他約六十圓を横領したため社主堀越海吉は五日平署に詐欺横領の告訴を提起した

無斷家出

妻子を置き去り

山形縣東置賜郡大川村大字黒川遠藤太郎(三)は昨年暮れ妻ハツ(三)外幼児二人を置き去りにして無斷家出を行方不明したものでその後捜索の末石城郡内郷村大字宮竹の内に居住し磐城坑夫に住み込んでゐる事が判明したので六日平署に夫練太郎の歸宅説諭方を妻ハツから願出た

拾遺歌中題詞の「まはは」

現今の湯本(三橋)町に懸く

(飯坂温泉元湯の鯖湖に強引、建碑せるは無稽、不當の極み)

又該の海道區間は養老三年の詔り多岐より途限川の渡し時、開七月、石城國際家一十に至る十驛を配置せる官設の處、(續日本紀)とあるに當り道途で、弘仁二年の正文には

鮫川刺史

陸奥海道十驛、(同紀)とみる同所、是の海道で此の間に六郡(菊多、石城、語は、畢竟白河割を必由せる標葉、行方、宇多、互理)を山(後山)とも道の對語に外有し、中世に至り舊石城郡がならぬ。

降つて文治五年七月、源頼朝から、以來八郡を置いた所朝興州を征伐するや、其の三大郡の大略だ。故に前掲の東海道湯本は陸奥海道上の湯本を夫れ自体が表はしてゐるのが瞭然であらう。

